

ヤマは対策協議会に

大詰め近い水俣病究明

説 解

水俣病の原因究明は熊大研究班が、湾内でとれるムラサキイカイから毒物とみられる有機水銀化合物の抽出に成功したことから、いよいよ最後の段階に入り、九月中旬に東京で開く経済企画庁水俣病対策協議会が最大のヤマになるものとみられる。

水俣病はさる廿一年五月発見された原因不明の中枢神経疾患で現在まで八十四人がかかり、十三人が死亡、死亡率四〇％という恐ろしい病気である。この

間熊大では三十二年いらい研究班をつくり、原因究明をつづけ臨床結果から湾内の魚貝類を多量に採取して起る重金属中

毒という一応の結論を出し、さらに三十四年には有機水銀説を発表、厚生省も全面的にこれを受け入れた。これに対して工場側は全面的に否定したため、大学側では病因物質を確定するための医学的調査に全力をあげてきた。この結果、医学部生化学教室(教授内田稔男氏)が毒物とみられる結晶体の抽出に成功。その化学構造式が明らかにされたわけで、有機水銀化合物説を確定する裏付けがほぼ完全にできたことになる。

これについて内田教授は「すべては経済企画庁の会議の席上で発表する」と公式の発表をさけているが「推論すれば、この毒物がどこ

からどついう風にムラサキイカイの体内に入ったかは明らかで、その過程の一部は実験的にも証明できる」とのべ、工場排水との結びつきを示唆している。しかし工場排水と毒物を直接結びつけるためには、農林省水産研究所の調査が必要であり、そこまでいくにはまだかなりの時間がかかるものとみられている。

ただこんどの毒物抽出で、熊大研究班の役割は一応終わったことになるわけで、今後の問題はすべて中央の手に移されるほか、結びつきがはっきりした場合、警察当局の動きともからんで、各方面への影響は大きい。